

内湾域におけるヒラメの放流技術開発-I ヒラメの 小型種苗の摂餌能力と放流サイズ・場所について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浜中, 雄一, 榮, 健次, 竹野, 功璽, 今泉, 均 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014347

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution 4.0 International License.



内湾域におけるヒラメの放流技術開発—I. ヒラメの小型種苗の摂餌能力と放流サイズ・場所について

浜中雄一, 榮 健次, 竹野功聖, 今泉 均

本研究では、全長 30~60 mm のヒラメ稚魚を京都府久美浜湾へ放流し、その後のヒラメ稚魚の消化管内容物の調査を実施した。ヒラメ稚魚の主な餌生物はアミ類であり、ヨコエビ類とくらべて 1/100 のオーダーの密度であってもヨコエビ類よりアミ類を選択的に摂餌することが判った。また、ヒラメ稚魚の大きさによる摂餌能力の違いでは、全長 30 mm 以下の稚魚の場合には放流 5 日後においても 50% 以上の個体が摂餌していなかった。全長 30~35 mm の稚魚の場合には、放流翌日には空胃個体もみられたが、放流 5 日後には全ての稚魚が摂餌していた。

栽培技研, 18(2), 101-105 (1989)